**津屋崎祇園山笠祭り**

津屋崎祇園山笠は、300年以上前に遡る祭りです。この祭りの中心となる行事として、色鮮やかに飾りつけた木製の山車を担いだ3つの組が、福津の津屋崎地区の狭い通りを走って競争します。福津の3つの地域を代表する各組は、波折神社を出発後、異なる道をたどってから合流し、目的地まで戦います。

*聳え立つ山車*

それぞれの山車 (*山笠*) の高さは約5m、重さは約1トンあり、30人で担ぎます。山車は華やかな戦いの風景で飾られており、馬に乗った恐ろしい侍、城、描かれた波と花ふぶきが目を引きます。侍の人形は伝統的な津屋崎人形です。土から作られており、鮮やかな色で塗られています。各地域は、世代から世代に受け継がれてきた伝統的な組立技法を使って、山車を手で作ります。

競争するこれらの3地域は、鉢巻の色でわかります。漁港である「北流」は、桃色の鉢巻をします。商業地域である「新町流」は、黄色の鉢巻をします。農業地域である「岡流」は、赤色の鉢巻をします。

*感染症に対する祈り*

この祭りは、博多祇園山笠という祭りから来たものです。博多祇園山笠は、福岡で760年以上行われてきた祭りです。2つの祭りとも、感染症や災害から街を守るために行われています。第二次世界大戦中、津屋崎祇園山笠は中止されていました。その後、何回かの中断と再開を経て、1975年に完全に復活しました。津屋崎祇園山笠祭りは、7月19日に最も近い週末に行われます。土曜の夜、提灯を持って通りを走り抜けることから始まり、日曜の朝に、祭りの中心となる追山が行われます。山車を担いだ各組は、祭りの終わりに、山車の飾りを病気や災害からのお守りとして地域の世帯に渡します。これら手描きのお守りは、津屋崎千軒の商業地域で多くの家の玄関に飾られています。